

ALGOMATIC × Goodpatch

AI SOLUTIONS

AIを組み込んだプロダクト開発支援

プロダクト開発とAIをつなげる

生成AIの登場は世の中に大きなインパクトを与えました。

これまで以上にAIはプロダクトに組み込まれていくことが想定されますが、そこで必要なプロセスやノウハウはこれまでのプロダクト開発とは異なります。

今まではユーザーとプロダクトだけでしたが、AIという新しい登場人物がいることで、プロダクトデザインの考え方を大きく見直さなければならない場合もあります。

また、AIは何もインプットがない状態では期待している結果が出ることはありません。インプットとなるデータを整備し、適切な技術アプローチによる実装が求められます。

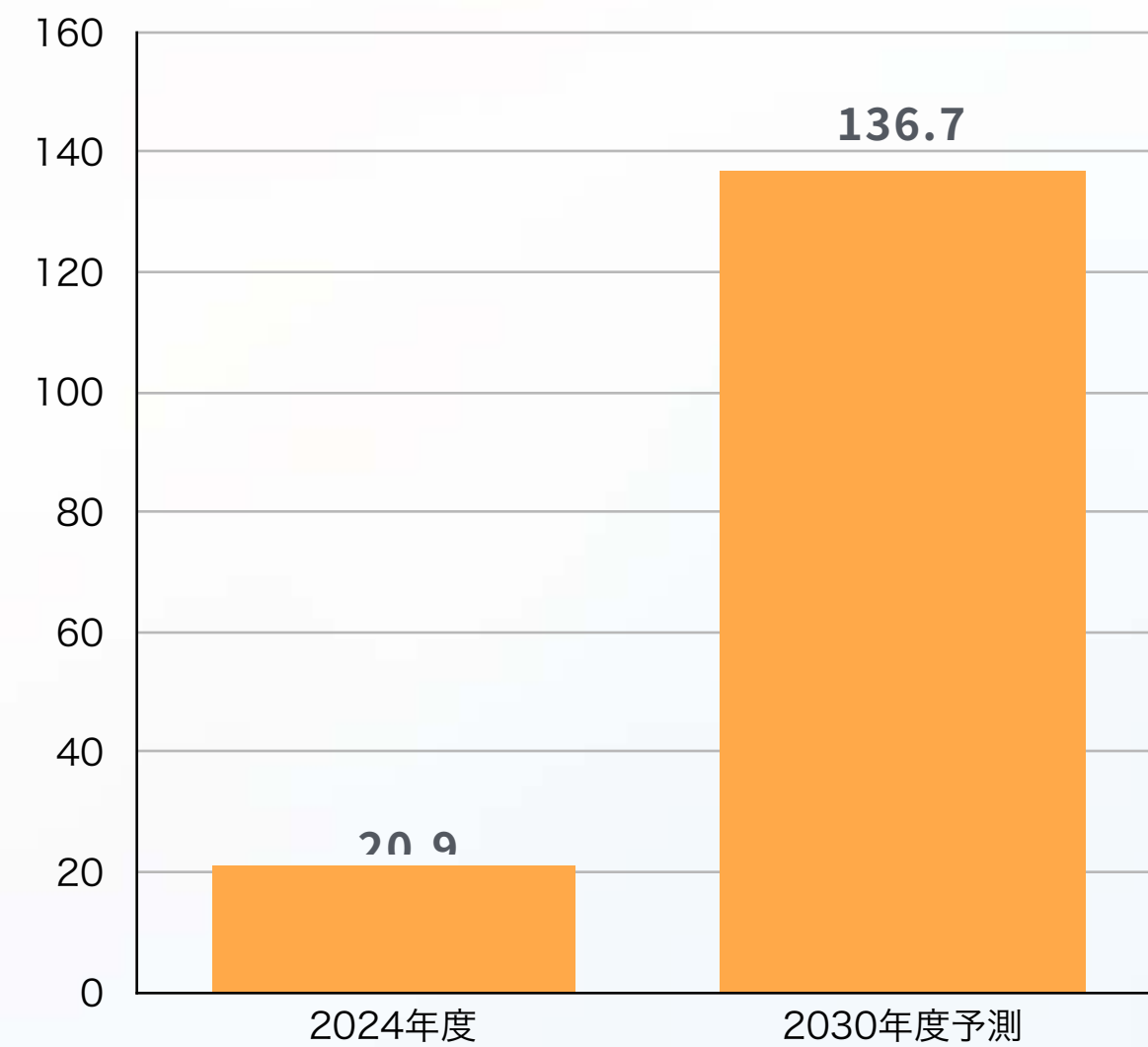
誰もがAIを身近に感じ始めている中でプロダクト開発の未来にAIという進化する技術との接し方やAIを通したユーザー体験を考えていかなければなりません。

AI市場とデザイン

生成AIがトレンドになっている社会

2022年のChatGPTリリース時に大きな話題となって以降、生成AIという言葉が耳にすることが多くなりました。多くの企業がAI導入を推進し自社事業や社内業務効率化へと予算をかけていく方針を打ち出しています。さらに加速するAIの進化により、多くの企業が期待を膨らませているはずです。

世界の生成AI市場



(億ドル)

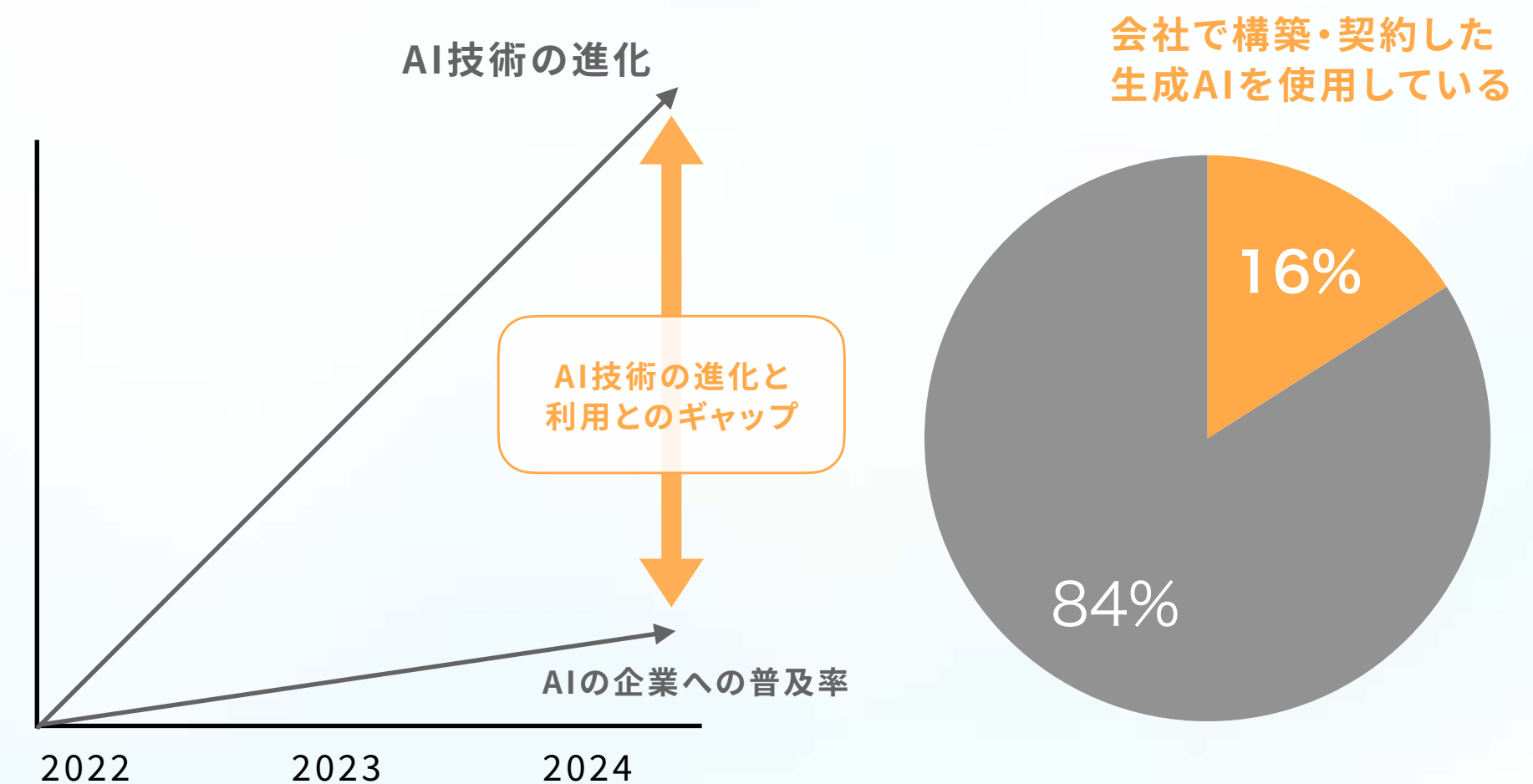
出典：株式会社グローバルインフォメーション

AIの進化の速度に対して、普及率が追いついていない状況

昨今、猛スピードでAI技術が進化し続けている反面、企業のAIプロダクトの活用率は上がっていません。

技術力・精度はもちろん大切ですが、どんなに利用しやすいツールでも使う側がどうやって利用すべきかが定かでない状態では、使われなままになってしまいます。

AI技術の進化と利用とのギャップ



参考：JIPDEC / ITR「企業IT利活用動向調査2024」

AI領域におけるAlgomaticとグッドパッチの強み

Algomaticとグッドパッチが提供するAIプロダクトのデザイン・開発支援サービス

AI領域におけるAlgomaticとグッドパッチの強み

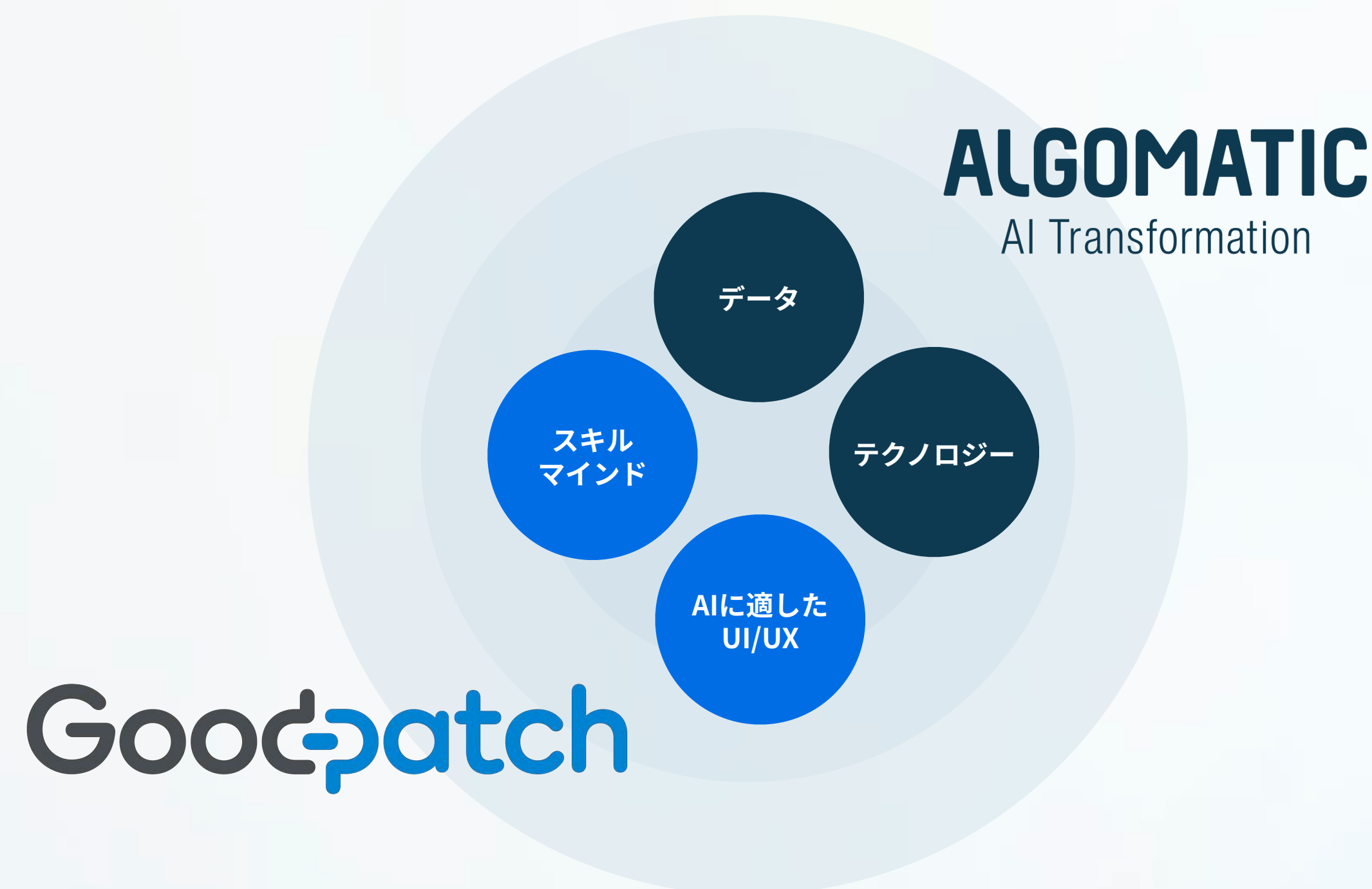
Algomaticとグッドパッチが提供する価値

テクノロジーだけではAIは使われません

AI技術を利用するために必要な目的や期待できる成果、運用の仕組み、リテラシーやユーザビリティを考慮されたインターフェイスがデザインされていることで初めて利用するユーザーに価値を実感してもらえます。

また機能の精度を向上させるためにもAIに最適なユーザー体験や適切なデータ基盤構築が必要になります。Algomaticとグッドパッチの強みを組み合わせることで、実現することが可能です。

AIが「使われる」ために必要な要素



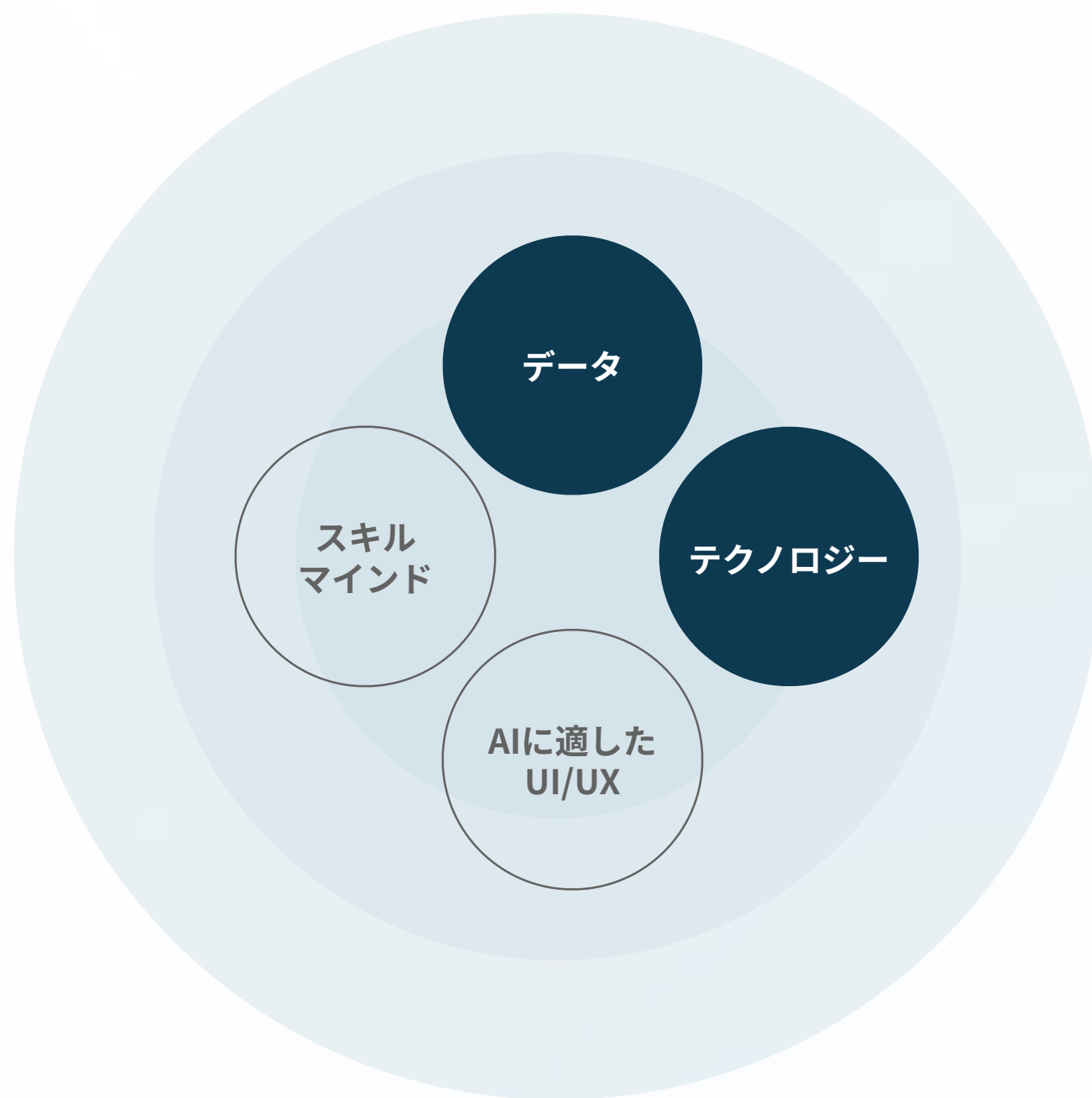
AIのテクノロジーを実感し使うための体験が大切になる

「使われる」AIプロダクトを作るためには
テクノロジーと体験を組み合わせる必要がある

ALGOMATIC

AI Transformation

昨今、猛スピードでAI技術が進化し続けている反面、企業のAIプロダクトの活用率は上がっていません。技術力・精度はもちろん大切ですが、どんなに利用しやすいツールでも使う側がどうやって利用すべきかが定かでない状態では、使われないままになってしまいます。



精度を高めるためのデータ基盤設計と運用のノウハウ

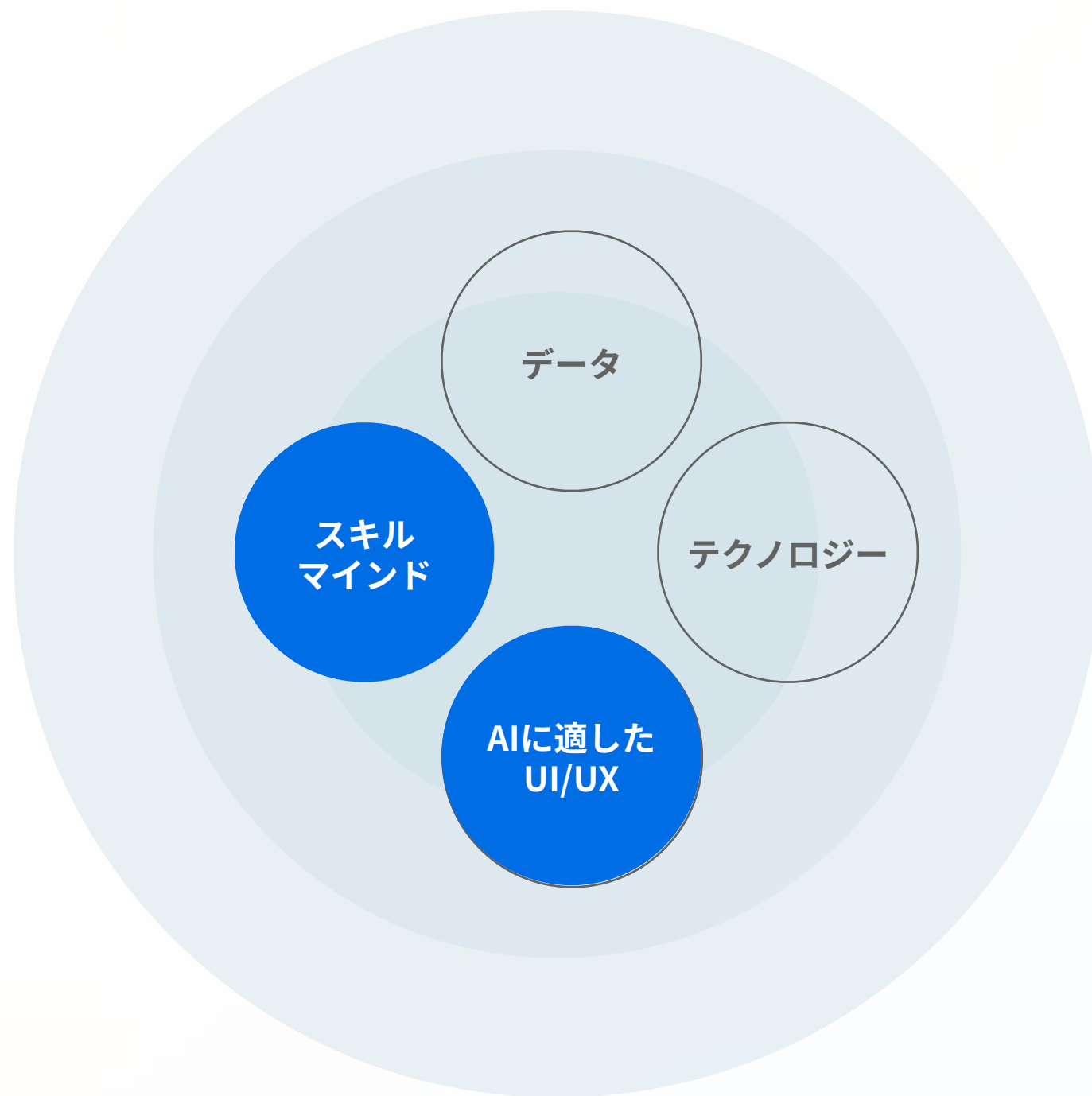
AIの価値を最大限高めるには、品質の高いデータが必要です。高精度で信頼性のあるデータを活用するため、最適な収集プロセス設計、継続的なクリーニング・ラベリングなどを実現できる生成AIネイティブな基盤構築・運用を支援します。データの信頼性を担保することで、クライアントの競争力を強化し、効率的なAIプロダクトを実現します。

業界特性と目標に合わせたテクノロジー選定

業務特性と目標に合わせた最適なソリューションを提案し、従業員の受け入れやすさに配慮しつつ、AIを効果的に組み込んだ業務プロセスを構築します。短期的成果と長期的価値創出のバランスを考慮した費用対効果の高いアプローチを選定し、多様な業界での実践的知識と先進技術を組み合わせたソリューションを提供、提案します。



グッドパッチの強みである「ユーザー理解」を最大限に活用しユーザー（顧客）・提供する企業はもちろん、開発メンバーも含め全てのステークホルダーに、AIプロダクトおよびAIプロダクト開発における最適な形を実現します。



ステークホルダーのスキル・マインドを理解したコミュニケーション構築

AIプロダクトにおける全てのステークホルダーの状況を理解することで、現在の過不足を明確にしていきます。それは「AIで解決すべきこと」「AI以外で解決すべきこと」を整理して、AIプロダクトやステークホルダーがどのような存在であるべきか、どのようなコミュニケーションが必要かを定義します。

ユーザー目線を理解した「使われる」プロダクトの実現

現在は多くの企業がAIプロダクトを開発したりAIツールを導入していますが、その大半が使われていない状況にあります。その要因として、AI技術の進化に対応することやAI技術を取り入れること自体が目的化してしまい、プロダクトアウトの発想で作られてしまっていることが挙げられます。UI/UXデザインの視点をプロダクト開発に取り入れることで、ユーザーニーズを満たし“使われる”プロダクトに導くことができます。

提供ソリューション

AIプロダクトを開発する際の課題探索ワークショップ

AIプロダクトの仮説検証開発 (PoC)

AIプロダクトの開発体制支援社内浸透伴走支援

Algomaticとグッドパッチが提供するAIプロダクトのデザイン・開発支援サービス
提供ソリューション

Algomaticとグッドパッチ双方の強みを 活かし、3つのソリューションを展開

プロダクト開発にAIを組み込む上でその課題感ごとに必要な課題解決方法が異なります。

プロダクト開発にAIを組み込むために何をすればいいか迷っている段階でもAIを組み込むための開発プロセスでも臨機応変にご支援します。

Algomaticとグッドパッチの強みを組み合わせた専門性の高いソリューションを提供します。

ALGOMATIC
AI Transformation

Goodpatch

AIプロダクトを開発する際の 課題探索ワークショップ

課題探索

社内課題

ソリューション開発

SaaSプロダクト

AIプロダクトを導入するために何が 필요한のか、また自社やプロダクトにおいてどのような導入方法があるかが不鮮明だった場合、まずは課題を明確にするためにワークショップを実施します。一般的なAI活用スキルから技術的・専門的なノウハウまで、状況やニーズに合わせて「まずは何をすべきか」を共に見つけ出します。

課題感だけではなく実現ロードマップやスコープの 解像度があがる

ワークショップを通して「次にすべきこと」や「将来的なビジョン」を可視化するための材料を得ることができます。今後の計画をイメージでき、ロードマップの構築など次のステップに進むことができます。

メニュー例

※ オフライン・オンライン / 参加人数 / 回数などは、課題や目的をヒアリングした後に、設計して提案します

01 市場の理解

02 理想のイメージ

03 課題の整理

04 課題解決の方向性整理

05 課題解決の実現



個人の課題・組織の課題を洗い出すために理想のイメージを目指して、そのギャップを洗い出しながら参加者全体の認識を揃えていきます。

**Algomaticとグッドパッチで
一緒になって課題解決まで
コミットしていきます**

ただワークショップをやるだけではなく、課題を明確にしてから本当に課題を解決する方法の実現までを伴走しながら共に思考しサポートします。

参考期間：1～2ヶ月

参考体制：ワークショップデザイナー1名以上 / テクニカルディレクター1名以上

AIプロダクトの 仮説検証開発（PoC）

ユーザー検証

SaaSプロダクト

社内ソリューション

ユーザーリサーチ

AIプロダクトを導入する前にユーザーにどのような潜在ニーズが存在するのかが明確になっていないと開発への投資を意思決定しにくいケースが多くあります。

そのためまずはプロトタイプを作りユーザーリサーチを実施して成功への解像度を高めることが重要です。さらに実際に動くプロトタイプを使った検証で、検証の精度をさらに高めることができます。

成功確度の高いプロダクト・サービスの要件設計・計画が可能になる

ユーザーがどのような機能や精度を求めているのか、そもそものAIプロダクトがユーザーに求められているかなどプロトタイプを使った検証結果をもって、どのような成果を出せるか、どのようなKPIを達成できるかをプランニングできるようになります。

検証設計

検証目的・ゴールと検証すべきUXプランニング

検証する目的と、そのために必要な検証方法を整理します。その上で、どのような体験でどんな価値実感をさせるのかを定義します。

プロトタイプ制作

プロトタイプの要件設計～実装

実際に動くプロトタイプをUI/UX設計から開発まで行います。コアの機能のみ開発するので最短で検証できるだけのクオリティを実現します。

検証

精度検証も可能な動作を組み込んだ実践に近いリサーチ

AIの精度だけではなくUXを含んだAIプロダクト全体での価値実感を検証します。検証方法も実際の画面を操作していただくのでイメージしやすくなります。

企画策定

検証結果からのソリューションの方向性を決定

検証結果をもとに次のステップを企画します。ソリューションの戦略・方向性・要件などを伴走して策定します。

参考期間：3~4ヶ月

参考体制：UXデザイナー1名 / UIデザイナー1名 / PM 1名 / エンジニア 1名

AIプロダクトの開発体制支援

プロダクト開発

SaaSプロダクト

社内ソリューション

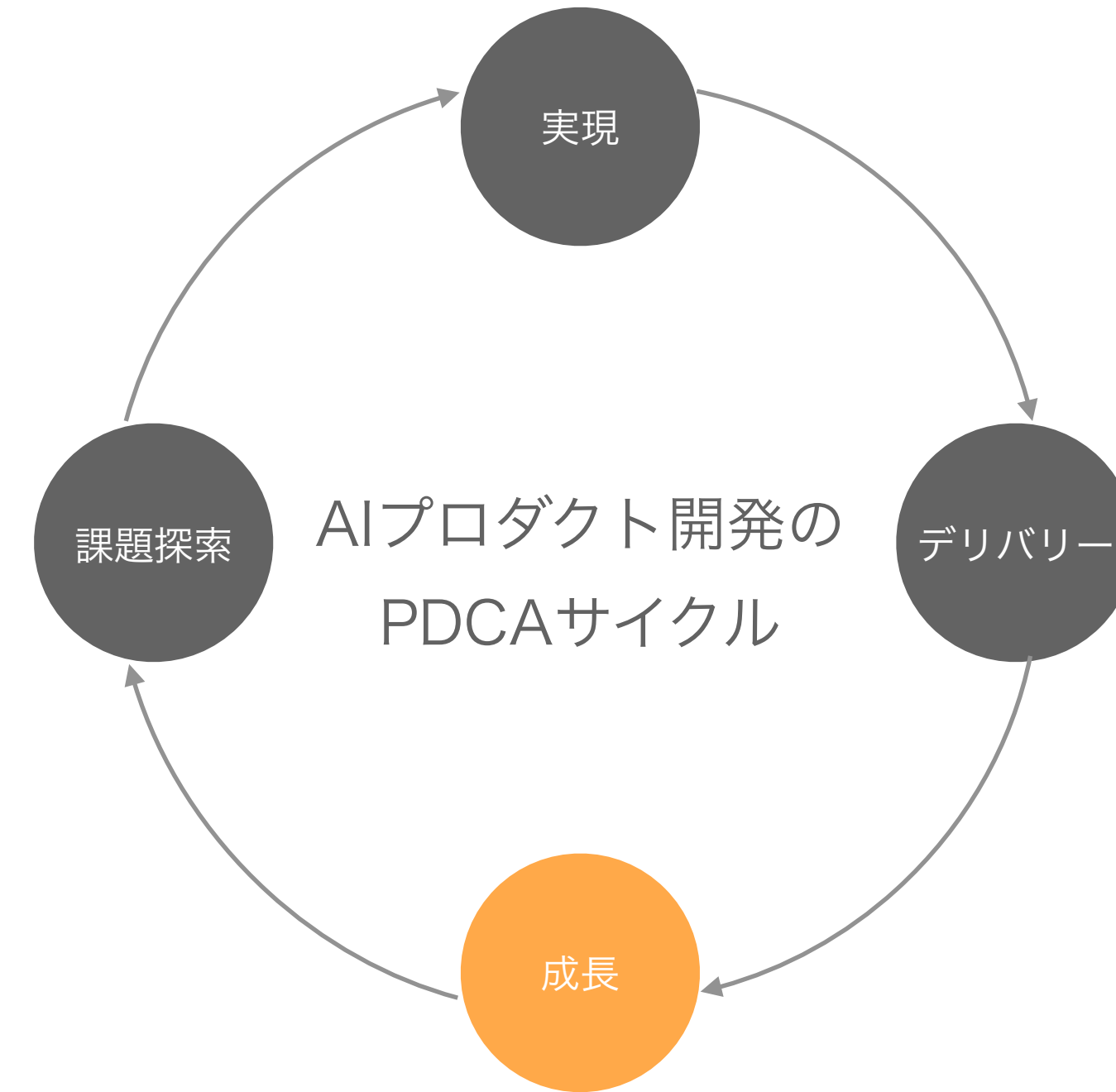
LLM

Algomaticとグッドパッチの技術力・ノウハウを活用し、プロダクト開発を支援します。Algomaticが持つ、AIを使ったプロダクト開発の知見と、AIへの最適なインターフェイスなどグッドパッチのデザイン力という、それぞれの強みを生かすことで、AIプロダクトの可能性を引き出すことができます。また、作って終わりではなくAIプロダクトに一番大切なリリース後のチューニングや運用も支援できます。

長期的な「成長する」プロダクトを開発することができる

それぞれのスペシャリストの経験値を取り入れることでAI特有のプロダクト開発におけるPDCAサイクルを実現し、作るだけでなく成長できるプロダクトにすることが可能です。

またその知見を貴社のプロダクト運営にも取り入れることができます。



AIプロダクトにおける重要なプロセスである「成長」までを支援可能です

そのまま作るだけでなく、中長期に目線を合わせてリリース後も 伴走しながらプロダクトを発展させていきます。

参考期間・参考体制：要件定義により変動

Algomaticについて

ALGOMATIC

Algomaticについて

生成AIで心躍る 未来をつくる

Algomaticは、DMMからの20億円の投資で立ち上がった新しい会社です。
領域問わず、生成AIネイティブなサービスを次々と生み出し、
心躍る未来をつくれます。

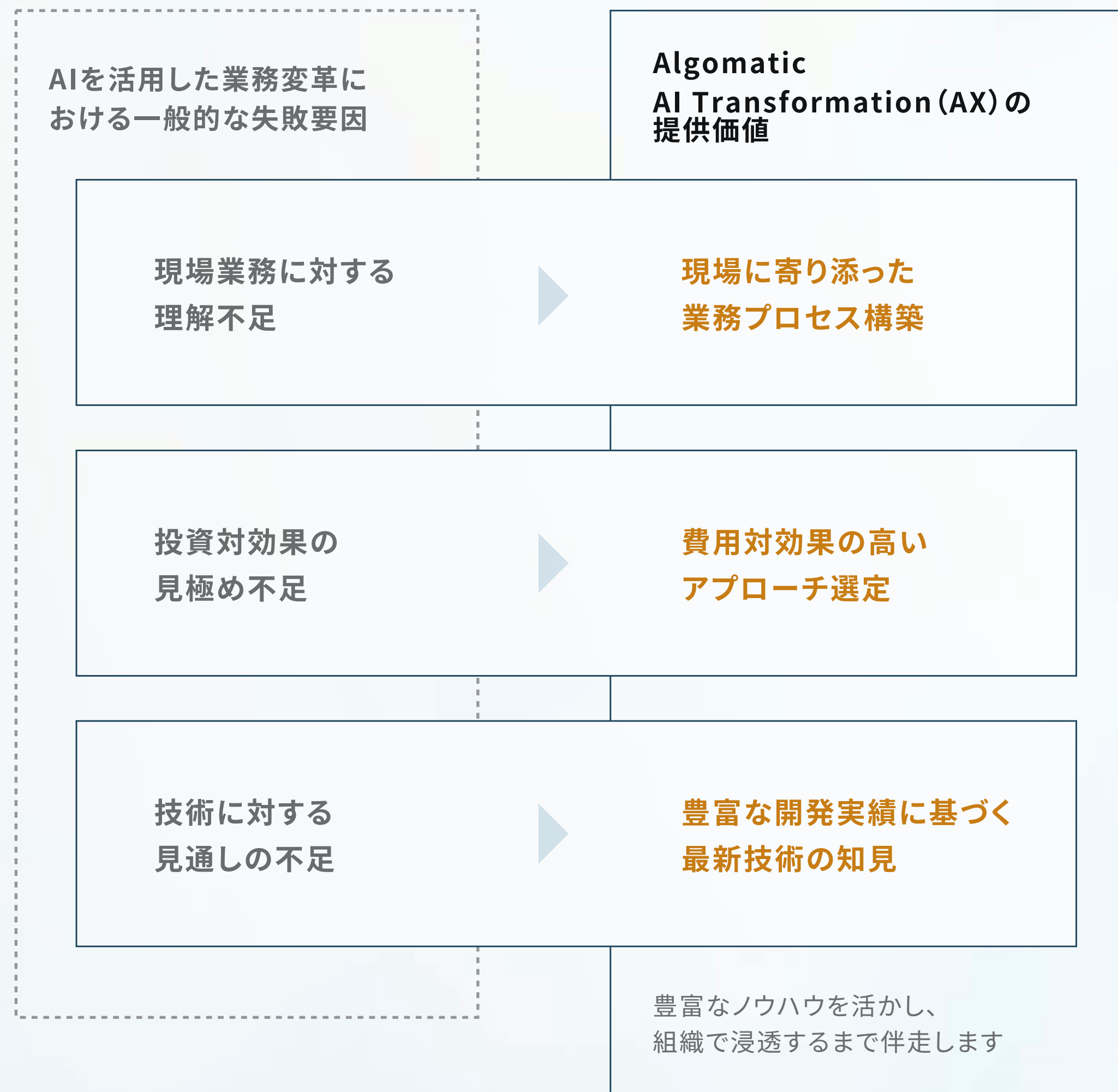
取引先企業

※Algomaticグループの取引先の一部抜粋です。



生成AIでDXを超える AI変革を

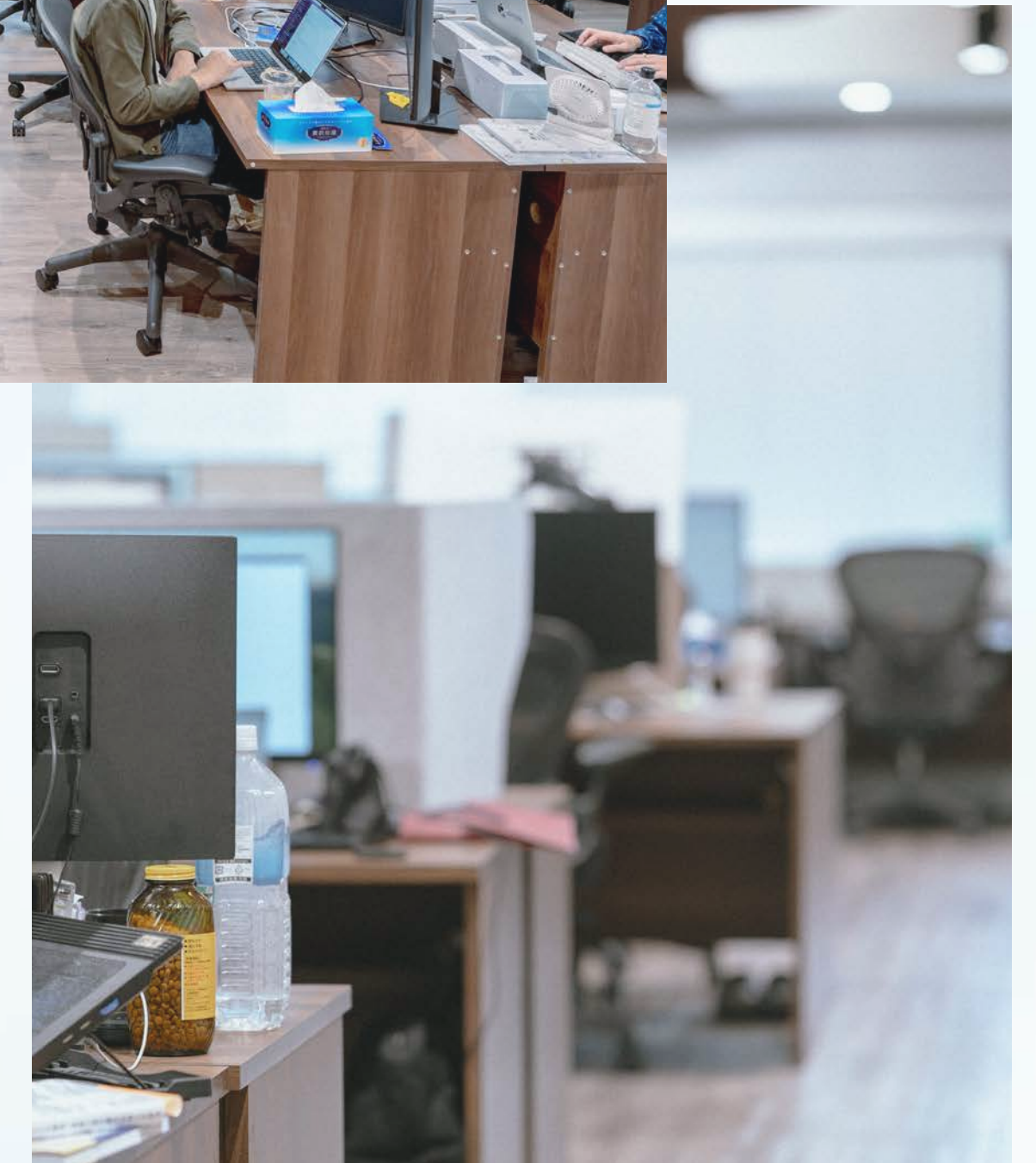
AlgomaticのAIコンサルティング・受託開発サービス「AI Transformation (AX)」では、「AIで企業の業務のあり方を変革する」というミッションを掲げ、まずは日本企業の業務変革を推進していきます。これまでのデジタルトランスフォーメーション (DX) の主眼になっていたペーパーからのデジタル化や人による作業のシステム代替にとどまらず、「人間の思考」を代替しながらコストダウンだけでなくトップラインを上げていくような取り組みを目指しています。



ALGOMATIC

Algomaticについて

会社名	株式会社Algomatic
設立	令和5年4月13日
代表者	代表取締役CEO 大野峻典
主な事業	大規模言語モデル等生成AI技術を活用した、サービスの開発・提供
事業所	〒103-0005 東京都中央区日本橋久松町10-6 THE CROSS日本橋人形町 8F
関連会社	合同会社DMM.com 株式会社Algomatic Works



グッドパッチについて

BtoC, BtoBエンタープライズからスタートアップまで幅広く支援

BtoC, BtoB エンタープライズ



SoftBank

MIZUHO

三菱UFJ信託銀行

SBI証券

PR TIMES

UZABASE

CyberAgent.

MIXI

RakSul

ADWAYS

SUNTORY
SUNTORY BEVERAGE & FOOD



MARUI GROUP

here

DAIMLER

TOYOTA
connected

スタートアップ

支援後9社が上場！bitkeyには出資

Gunosy

Money Forward



ONE CAREER



ContractS

Unipos

KAIZEN PLATFORM

Lancers

yappli

every

Shippio

FABRIC TOKYO
Fit Your Life.

bitkey

会社名 株式会社グッドパッチ

設立 2011年9月

所在地 〒150-0032 東京都渋谷区鶯谷町3-3 VORT渋谷South 2階

従業員数 251名（正社員 2024年5月末日時点 連結）

経営陣	代表取締役社長 / CEO	土屋 尚史
	取締役執行役員 / CFO	槇島 俊幸
	社外取締役	小塚 裕史
	社外取締役	佐藤 あすか
	社外取締役	広木 大地
	常勤監査役	佐竹 修
	非常勤監査役	佐田 俊樹
	非常勤監査役	川口 真輝

事業内容 UI/UXデザイン、ビジネスモデルデザイン、
ブランド体験デザイン、組織デザイン、ソフトウェア開発

関係会社 株式会社スタジオディテイルズ、株式会社Muture

拠点 日本（東京、名古屋）

